

令和5年度 久留米市文化財保存活用地域計画協議会 会議録 (HP)

1. 開催日時：令和6年3月26日（火） 15:00～16:50
2. 会場：久留米市庁舎303会議室
3. 参加委員：赤司、吉田、松岡、永松、古賀、松枝、立石、矢次、深山
4. 事務局：竹村、井上、丸林、神保、熊代、大塚、小川
5. 議事

(1) 開会あいさつ（竹村部長）

(2) 会長・副会長選任

会長：赤司

副会長：矢次

<赤司会長・矢次副会長あいさつ>

(3) 事務局からの報告

1) 令和5年度の事業報告

配布資料に基づき、事務局から令和5年度の事業について報告した。

委員) 大善寺旧庫裏の修繕の実施とは、具体的にはどのような事を行われたのか。

事務局) 熊本地震による瓦のずれの修繕や雨樋の詰まりがあり、溢れた雨が壁に当たって壁がえぐれるなどしていた。大雨で雨漏りも進んでおり、中の梁が腐れシロアリが一部入っていた。令和4年度に修理見積りを取り、5年度に修繕を行った。瓦や梁を替え、雨どいを外して雨落ちに砂利を敷き、雨がはじかない工夫を行った。

委員) 管理人はいるのか。

事務局) 毎週掃除している。

委員) 来年度に向けての取り組みについて、ユニークベニューの推進がある。今年度は鏡田屋敷で展示されているが、来年度は国の登録文化財となった旧國武合名会社をまち旅の中で案内をする予定。可能なら令和6年度久留米市美術館での久留米緋の展示中に美術館でマップを渡し、美術館から問屋街や倉庫などを案内するような催し、及びユニークベニューを推進できないか。

委員) このことについて、久留米緋技術保存会から意見はどうか。

事務局) 久留米緋技術保持者が久留米市美術館で藍染の展示を7月から9月にかけて行う。それに合わせ、久留米市と久留米緋技術保存会が協力して展示を行う予定。その中でワークショップや関連事業ができないか検討し、提案のあった旧國武合名会社について検討する。

委員) 令和5年度たくさん事業しているとわかったが、この5・6年度というのは実施期間の前期、中期、後期のどこに当たるか。

事務局) 令和6年度までを前期としている。令和7年度までの5か年を踏まえ、中間見直しを行う。

委員) 草野町の街並みについて報告にあがっていないが、どのように考えているのか。

事務局) 歴史的建造物もたくさんあるので、伝統的町並み保存地区については観光と連携しながら建造物の保存を進めていく。

委員) 何か具体的な課題があるか。

委員) 空き家が増え、さらに高齢化で管理ができず取り壊される建造物が増えている。草野伝建地区審議会の会議では、指定物件を取り壊すという話しばかりで、どんどん数が少なくなっている。この地域計画の中で「筑後川遺産」と絡めて現状を保てたらいいなと思っている。

委員) 私は草野町に住んでいるが、観光の動きは目に見えてこない。山辺道文化館を修理しているが、観光・国際課の事業なのか。

事務局) 観光・国際課の事業で、外部の塗装、内部の空調修理を実施した。文化庁の補助事業を利用している。都市建設部で設計している。

委員) 文化財担当の職員は専門職で異動がない。観光・国際課の職員は3～4年で異動するため、思い入れがないように感じる。所有者も世代が変わり、同様に思い入れがなくなっている。

委員) まちかど博物館は2年前につばき祭りと一緒にした。古民家開放は行っていない。鹿毛家も週に2日しか公開されてない。

事務局) 松岡委員にご協力いただき、須佐能袁神社の調査を昨年度から行っている。課題があることは重々承知している。文化財保護課としては、指定文化財を増やす等を検討していく必要があると考えている。地域の人たちがどう考えているかについては、積極的に建物を残すという意識は以前に比べて低い。須佐能袁神社の調査をきっかけに話をしていきたい。

委員) 文化財保存活用地域計画そのものがこれまでと違うアプローチができるというのが強みなので、地元の人から課題を拾いあげてほしい。

委員) 以前も申し上げたが、市内には有馬家ゆかりの庭園がいくつもある。歴史的な価値を発信する取り組みが必要ではないか。庭園もここ2・3年で消失、荒廃が進んでいる。明治・大正期に活躍した造園家がいるが、久留米市内や田主丸町の造園業はそれで発展していった。歴史的な遺産として発信していく必要がある。

2) 筑後川遺産の情報発信事業について

配布資料に基づき、事務局から説明

委員) 城島の酒蔵の話の中で、水と米に恵まれていたとあったが、米についてはほとんど触られていない。城島地域で酒に使われる、米や農村部の中で生まれた酒造業だということをもう少し深めた方がよい。

委員) 販売、流通についてはあんまり触れていないと思ったが、流通に光を当てることも大事だと感じた。

事務局) 流通に関しては、炭坑のある飯塚や諫早経由で長崎、あとは明治半ばを過ぎると朝鮮半島の満州にも販売していた。

委員) 飯塚への輸送手段は何か。

事務局) 大川軌道で縄手まで行き、縄手から国鉄、今のJRで運んでいた。

委員) 流通も広域に広がっている印象を受けた。酒蔵というと酒作りに目がいきそうだが、様々な視点を持つことが大事。

(3) 報告3) 新規の筑後川遺産候補について

配布資料に基づき、事務局から説明

委員) 青木繁が亡くなる前に櫛並木の詩を詠んだ。碑があるので今後も守っていく。

委員) 櫛並木の保存状況はどうか。枯死も進んでおり、若木を補植することもあるのか。

事務局) 補植している。

委員) 櫛並木の影響で水田への日当たりが悪いため、櫛を伐採したこともあるのか。

委員) 以前は分からないが、現在はそういうことはない。元々産業として実を取っている。景観のためだけではない。200 数十年経った老木になり、見栄えは 10 年に 1 回ぐらい、非常にいい時がある。地元の保存会で草刈りや施肥等の管理をしている。道路が整備されたことで生態系が変わってくるが、補植することで対応できると思う。剪定作業は筑水高校と協同で行っている。

委員) 学生も、筑後川遺産登録のプロジェクトにメンバーとして加わる。希望が持てる。

委員) 紅葉の時は特に綺麗だが、落葉が水田に落ちてくるという苦情が出る。

委員) 3月23日のけしけし祭りは何か認定されているか。

事務局) 認定されていない。

委員) そばで耕作をしている方には理解を得られないこともある。櫛まけすることもある。指定に同意していない方もいる。

(4) 協議 筑後川遺産構成遺産の追加について 配布資料に基づき、事務局から説明

委員) 実家のあるところのお祭りで、抜けているのかと心配していた。7月28日に行われた。何度も参加している。

委員) この獅子の写真を見ると、甘木の系統だと思う。まだ職人さんはいるのか。

事務局) 水害で亡くなられた後に、技術を復興させた方がおられる。その方に修復をお願いしている。

委員) これはいつ頃から始まったのか。

委員) 田主丸の村のほとんどが近世に成立している。村落が作られた時に神社も建てられた。そのため江戸時代の 1650~1660 年頃以降のお祭りだと思う。

委員) 事務局から筑後川遺産構成遺産への追加について提案があったが委員から異議がなければ、追加登録とさせてもらうがよいか。

異議なし

(5) その他 事務局から次回開催時期について説明

(6) 閉会